

◆まちづくり地域優良事例集◆

植木まちづくりセンター

植木寺子屋事業

〈取り組みの内容〉

学校の放課後を利用し、地元の人が講師となって児童にいろいろなことを教えています。習字や英語、地域の歴史といった内容に始まり、野菜の生産者の話を聞いたり、野菜を育てて販売したりしています。

〈取り組みで工夫にしていること〉

運営メンバーは退職した人や、子どもが巣立った後の方が多いです。ボランティアなので、本人に余裕があることが大切です。それから、やっぱり自分が楽しいことが一番。私はもう植木に70年住んでいますが、小学1年生から顎で使われていますよ（笑）。

それぞれのグループに全ての学年を入れるようにして、上の学年の子が、下の学年の子に教えるような雰囲気を大切にしています。

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

元々は「山本塾」という取組みから始まりました。毎週月曜日の午後4時から5時くらいまで、学校の放課後を利用し、地元の人が講師となって児童にいろいろなことを教えるものでした。最初は習字や英語、地域の歴史といった内容に始まり、野菜の生産者の話を聞いたり、野菜を育ててそれを販売したりしています。農家さんが子どもたちにいろんなことを教えてくれました。野菜の販売では、子どもたちの野菜の絵を貼り、生産者の顔として子どもたちの写真を載せました。

そのほかにも、鬼ごっこをしたり、おもちゃとかものづくりをしたり、夏の暑い日に名水百選のところに行って、水深の浅いところにマスを放して捕まえさせて、それを焼いて食べたり、お寺のお坊さんとの交流もしました。



山本校区自治協議会
植木地域校区 自治協議会連合会
会長 境 俊次 さん

〈今後の課題〉

運営資金について、いただくのは入会金の800円だけなので、野菜を販売したり、夏祭りの出店でかき氷や手作りのおもちゃを売ったり、学校のバザーにおいて竹で作ったプランターを売ったりして少し稼いでいます。資金集めは難しいですね。

〈今後の展望〉

「塾」と名前に入っているの、ある程度は勉強的なことも取り入れたいと思ってはいます。廃線跡の「ゆうかファミリーロード」を歩きながら、昔はどうだったとか、教えたいですね。

市との合併前の植木町の時は「小町祭り」というものをやっていましたが、それをまたやろうかなとも考えています。子どもたちから俳句を募集したり、ホタルの鑑賞をしたり。